

「守ろう、支えよう、大好きな故郷」

＜はじめに＞

西尾市は、平成26年5月に愛知県が公表した南海トラフ地震の被害予測調査結果において、長い海岸線と軟弱な地盤を抱えていることなどから、県内で最も深刻な被害が予測されています。特に津波被害が危惧されており、本市では平成30年3月に「津波浸水避難シミュレーション（現在：津波避難計画）」を作成し、市民の皆様には、津波発生の際は津波浸水想定区域外へ避難することを推奨してきました。

そのような中、平成30年度より愛知県教育委員会から本事業の委託を受け、学校安全に向けた取り組みを進めてきました。これまでモデル地域として、津波被害が危惧されている「一色地区（平成30年度）」「吉良地区（令和元年度）」「寺津地区（令和2年度）」「福地地区（令和4年度）」を、令和3年度は、地震による被害とともに、風水害において甚大な被害が想定されている「東部地区」を設定しました。令和5年度は、土砂災害警戒区域等が多く、風水害において甚大な被害が想定され、三河湾に面し、津波被害も危惧される「幡豆地区」をモデル地域とし、命を守るための防災活動を進めてきました。



＜事業の名称＞

昨今、全国各地で災害が発生しており、これまで以上に防災に対する意識強化を図るとともに、学校安全に係る取り組みをさらに進めていくことは重要課題となっています。一方で、災害に対して過剰になりすぎることは、子どもたちの故郷に対する愛着が薄れてしまうことにも繋がりがかねません。中には、この先何十年と地元で生活し、地元で活躍する子どもも多くいるはずで。そこで、「防災」に関する学習を通して、有事の際は故郷を守り、支えていける防災リーダーとして活躍できる人材となしてほしいという願いを込め、本事業の名称を「**守ろう、支えよう、大好きな故郷（ふるさと）**」としました。

＜事業の主な目標＞

- ・児童生徒が風水害や地震、津波などに対する正しい知識を身に付けるとともに、災害発生時には**防災リーダーとして積極的に活動できること**をめざす。
- ・児童生徒が取り組んだ成果等を自ら外部に発信していくことで、**学校間、地域間の防災に対する意識の差の解消**をめざす。

＜モデル地域及び拠点校の設定＞

【モデル地域：幡豆地区（中学校1校、小学校2校）】

【拠 点 校：幡豆中学校】

令和5年3月に発行された「西尾市洪水ハザードマップ」によると市域のおよそ3分の1が浸水し、全人口約17万人のうち約14万人が避難する想定となっています。さらに近年の台風の大型化や線状降水帯による大雨の頻発や長期化などからも風水害に対する備えが必要です。また、「西尾市津波ハザードマップ」によると、西尾市において津波災害によって洪水同様およそ3分の1が浸水する想定となっております。現在、市内の学校の多くは、児童生徒が在校中であれば高層階へ垂直避難することになっています。しかし、学校にいない場合であれば、原則として津波浸水想定区域外へ避難することになっています。それらを踏まえ、**風水害や津波被害などの幅広い知識や避難方法を周知・習得する必要がある幡豆地区をモデル地域に設定し、事業を進めること**にしました。また、自らの命を守ること（自助）はもちろん、「守られる側から守る側へ」という意識を育てること（共助）が大切であると考え、防災リーダー育成の観点から幡豆中学校を拠点校とし、幡豆中学校の1年生を中心に防災活動を進めていきました。



＜実践委員会の設置＞

年3回の実践委員会（**学校関係者、地域団体、行政で組織**）を通して、より効果的な活動方法などについて意見交換をしたり、避難訓練など防災に関わる取り組みにおける各校の課題などを共有したりすることができました。

防災教育アドバイザー 近藤ひろ子氏（JICA 防災教育担当専門家）
幡豆地区自主防災会連絡協議会会長、幡豆中学校PTA会長
西尾警察署、西尾市消防本部、幡豆中学校長及びモデル地域3校教員
県教育委員会、市教育委員会、危機管理課



モデル地域3校での「防災講話」

小中学生に、自然災害の恐ろしさ、西尾市や各校区における被害想定、小中学生が発災時に自宅や学校などでできること、西尾市の災害に対する備えなどについて紹介するため、危機管理課職員による防災講話を実施しました。

動画や写真、資料などを使い説明するなかで「いざという時に『やっておけばよかった』ではなく『やっておいてよかった』と実感できるような防災学習を進めてほしい。」「思うだけ・考えるだけではなく、実際に備えたり、家族と話し合ったりするなど自分事として行動にうつしてほしい」などのお願いに対して真剣に耳をかたむける姿を見ることができました。



幡豆中学校



幡豆小学校



東幡豆小学校

《児童生徒の感想》

- ・話を聞いて、災害はどうしても防ぐことができないので、これから地震や津波が起きた時にどうすればいいのか、食料がなくなったときにどうすればいいのかなど学んでいきたいです。
- ・南海トラフ地震による津波で西尾市の多くが浸水するのでとても不安になりました。西尾市の取り組みがたくさんあるけど、やっぱり自分の家で自分のために備えたいです。
- ・映像を見て地震の恐ろしさを改めて実感することができました。「自分の命は自分で守る」ということを心がけながら、人の役に立てる人にもなりたいです。自然災害を他人事だと思わず、しっかりと向き合い、どう避難したらいいか、どこに避難すればいいのかなど家族で話したいです。

モデル地域3校での「近藤ひろ子防災教育アドバイザー防災講話」

風水害や地震・津波などの災害に関する正しい知識を身につけるため、近藤ひろ子防災教育アドバイザーによる防災講話を実施しました。防災とは「命を守る」だけではなく、「みんなと一緒に生き延びていく」ことも大切であることと示唆いただきました。また、自然災害に対する対処方法や必要な備えについて、覚えやすい合言葉や「い・つ・も」「お・か・に」ソングで紹介していただいたり、様々なアイデアも紹介していただいたりしました。最後に助け合える関係をつくるためには常日頃から「笑顔であいさつすること」が大切であることを教えていただいたり、「中学生は地域の大きな力！」と熱いメッセージを送っていただいたりしました。



幡豆小学校



幡豆中学校



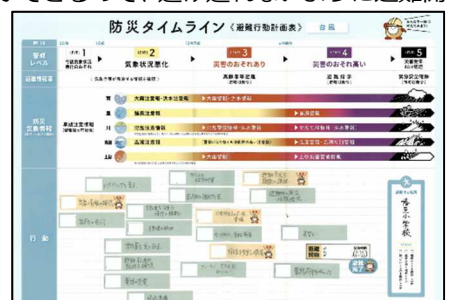
東幡豆小学校

《児童生徒の感想》

- ・地震津波防災ソングを手話付きで覚えようと思いました。災害が起きた時のために用意できるものは用意をし、家族と防災の事を話し合おうと思いました。
- ・非常時の持ち出しや備蓄品を家などで確認したり、倒れる家具がドアの近くにないか確認したりしたいです。小学生や中学生でも災害時に地域の大きな力になるということが印象に残りました。
- ・「私たちの行動が大人の人たちの『がんばろう』と思える力になる。」と聞き、もし本当に災害が起き、みんなが落ち込んでいたら、私が率先して動いて、人々に力を出してもらえようになりたいです。

幡豆中1年生「防災講演会」「風水害タイムライン学習」

防災講演会では名古屋地方気象台より講師をお招きし、防災気象情報や自然災害への対策について教えていただきました。天気のプロより、気象情報の入手の仕方について様々な方法があることやどのような情報なのかについても具体的に教えていただきました。風水害タイムライン学習では、風水害は地震とは違い事前に予測ができるので、逃げ遅れないように避難開始のタイミングを考え、防災行動計画である防災タイムラインを作成しました。



《生徒の感想》

- ・防災の気象について初めて学びました。最近経験した線状降水帯の意味がよく分かり、とても印象に残っています。防災タイムラインを作って、家族を守るような人になりたいと改めて思いました。
- ・今日、家が洪水、地震、土砂災害が起こったときの危険度を知ることができました。危険度が非常に少なかったので家族で話し合い、避難場所が家でいいかなど相談しておきたいです。
- ・西尾市のHPに防災について載っているとわかったのでこれからは見てみようと思いました。ハザードマップを確認して災害に備え、タイムラインを家族で確認したいです。今日の事を家族に伝え、これからに生かしていきたいです。

幡豆中1・2年生「災害クッキング講座」

名古屋文化短期大学の山田実加教授をお招きし「防災を楽しむこと」をテーマに、災害時の食に特化した講座を行い、防災意識の向上を図ることを目的に実施しました。災害時に活用できる調理方法であるバック・クッキング法（ポリ袋とカセットコンロを使用）に取り組みました。「災害時に温かいものを食べることができれば体も心もなごみます。また、洗い物も少なく、簡単に調理ができるので、日常にも取り入れてみましょう。」とご指導いただきました。



和風の蒸しケーキ



山田実加教授



調理実習



調理実習

《生徒の感想》

- ・災害食は簡単に作れて、災害の時でも作りやすいなと思いました。栄養バランスのとれた災害食を食べたほうが良いと思いました。
- ・三日分の食べ物があるのかや水、ガスが用意してあるかなど確認したいと思った。クッキングはあんなに簡単に作れて、おいしいので家族に広めて、もし災害が起きた時などに活用したいです。
- ・災害食は日常で食べているものと似ているため安心できることがわかった。普段から簡易トイレや口腔ケアなどの衛生面での備蓄や食料の備蓄を日頃からすることが大切だと改めてわかりました。

幡豆中1年生「HUG学習（避難所運営ゲーム）」

様々な事情を抱えた避難者を適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験しました。避難してきた方々の状況を考慮し、より過ごしやすい避難所作りをめざして実践することができました。避難所運営について考えるきっかけ作りとなりました。



《生徒の感想》

- ・HUGゲームを通して思ったことは、避難所運営はとても難しいなと感じました。避難所には様々な人が来るので、人それぞれにあった場所で過ごすには運営側の考えが必要と思いました。
- ・その時の状況とその場所の条件に合うように使用する場所を決めたいと思いました。一つの判断がとても大事になってくると思います。
- ・HUGゲームをして、実際に災害が起こったときに想定外の事が起こるかもしれないので日頃から災害が起こったときのことをいろいろ想定しておくことが大事だと思いました。

幡豆中1年生「防災講座」

【救出救護技術講座】

西尾市消防本部署員と地元校区の消防団員を講師としてお招きし「救出救護技術講座」を行いました。災害発生時に、一人でも多くの方の命を守るために救出救護の技術として「簡易担架による搬送法」「ロープ結索」を学びました。また、教室を使って煙体験をしました。



煙体験



ロープ結索講座



搬送法講座

【避難所簡易グッズ作り講座】

近藤ひろ子防災教育アドバイザーを講師としてお招きし「避難所簡易グッズ作り講座」を行いました。避難所などでより快適に過ごせるようにするために身近にあるものとして広告と新聞紙を工夫して活用し、食器とスリッパの作り方を学びました。また、ビニル袋を活用することで貴重な水を使わなくて済むことも教えていただきました。



広告食器作り



広告食器作り



新聞紙スリッパ作り

《生徒の感想》

- ・身の回りにあるものでこんなに簡単に代用ができることを知りました。簡易担架で運ばれる側をやったときに下ろすときに足から降ろしてくれると安心したので、その人の気持ちを考えてやれるといいなと思いました。
- ・簡単に作れるグッズの折り方を教えてもらい自分でやってみただけですごく簡単にできたので、いざというときにいいなと思いました。その他にもいろいろな体験をして、災害が起きた時や困ったときに役立つと思いました。
- ・みんなと息を合わせて慎重に運んでいくのはとても難しく、自分からしっかり声を出して呼びかけることがこういう場面で大事なことが分かって、いざというときに意識したいと思いました。

モデル地域 小中合同防災学習

中学生が「防災講座」で学んだ「救出救護技術」と「避難所簡易グッズ作り」を小学生に教えました。中学生が講師となって小学生と主体的に関わり合いながら伝えることで防災リーダーとしての意識の向上をめざしました。



はじめの会



搬送法講座



ロープ結索講座



ロープ結索講座



広告食器作り



新聞紙スリッパ作り

《児童・生徒の感想》

- ・災害が起きたときにやってもらじゃなくてやる方のときにしっかりできるようにやり方を覚えることができました。
- ・災害が起きたときに活躍できるのは私たちの年代だと思うので今日学んだことを覚えて、いざとなったときにすぐ動けるようにしておきたいです。
- ・教えながら改めて学ぶことができ、とても良い機会になりました。実際に災害が起ってしまったときに協力して行動できるように幡豆地区全体で防災への意識を高めていきたいと思いました。
- ・私が今回の防災学習で学んだことは仲間を広げるということです。災害が起ったときにすぐ動くためにも防災の知識は大事なので、まわりの人に伝えていきたいなと思いました。

幡豆小4年生「学習発表会『THE 防災 in HAZU～いざというときどうする!?わたしたちができること～』

4年生がこれまで学んできた「防災グッズ」「避難場所」「防災資機材庫」「名古屋市港防災センター」などについて、より分かりやすく伝えるためにスライドを使用し、発表することができました。また最後には、近藤ひろ子防災教育アドバイザーに紹介していただいた「い・つ・も」「お・か・に」ソングを4年生全員で手話を交えて披露することができました。本事業を通して、地震や津波から自分や周りの人の命を守るために、自分たちにできることを伝えることができました。



防災学習のまとめ

本事業を通して学んだことについて、幡豆中1年生が各自でまとめを作成しました。そして、地域にこの学びを広げるために、モデル地域3校の自主防災会などに一部配布しました。

今後も学校・地域・行政が連携し、学校安全に係る取り組みをさらに推進していきます！



モデル地域3校での防災アンケート

事業前と事業後に実施した防災アンケート結果を比較したものです。

Q1. あなたの住む地域における、地震や津波、洪水などの災害における被害想定について知っていますか？

	事業前	事業後
知っている	15%	24%
ある程度知っている	50%	56%
ほとんど知らない	35%	20%

Q2. あなたの住む地域における、地震や津波、洪水などの災害に応じた避難場所や避難所を知っていますか？

	事業前	事業後
知っている	62%	64%
ある程度知っている	32%	34%
ほとんど知らない	6%	2%

Q3. あなたの家では、災害時のために、備蓄品（物資や食料）を準備してありますか？

	事業前	事業後
ある	28%	41%
ない	12%	12%
わからない	60%	47%

Q4. あなたは家族と、地震などの自然災害について話し合うことがありますか？

	事業前	事業後
よくある	2%	5%
たまにある	23%	23%
ほとんどない	75%	72%

Q5. 災害時、あなたができることはありますか？

	事業前	事業後
ある	67%	86%
ない	33%	14%

アンケート対象

幡豆中1年生 98名
 幡豆小4年生 59名
 東幡豆小6年生 31名

計 188名

《防災学習を振り返って》

- ・いつ起こるかかわからない災害に備えていろいろすることはとても大切なのがあったし、家族が私たちのためにいろいろなことをしてくれているんだと感じました。
- ・地域の人に「逃げるよー」と知らせながら逃げるということも必要だけど食料を運ぶなどみんなの役に立てる人になりたいです。
- ・いつ災害が起きてもいいように家族と話したり準備したりしておきたいです。
- ・自分たちでも災害時にできることがあるから、学習したことを覚えておいて、いざとなったときにすぐ動けるようにしておきたいと思いました。
- ・今まで自分にできることはあまりないと思っていたけどたくさんあるとわかった。
- ・僕たちの知っていることを地域に広めたいと感じた。
- ・災害時、避難所で僕たち中学生は大きな力になることがわかりました。
- ・「実際に災害が起きた時に…」と考える時間が増えたので良かったです。もし、本当に起こったら自分ができることを探し、行動できるようにしていきたいです。

地元における地震や津波、洪水などの災害に応じた被害想定や避難場所、避難所について知っているかに対して、近藤ひろ子防災教育アドバイザーや危機管理課職員による防災講話を受けて、「知っている」「ある程度知っている」と答えた児童・生徒の割合が増えました。学んだことを、他学年の児童・生徒や家族、地域へ広げていきたいです。

「備蓄品の準備をしている」と答えた児童・生徒の割合も増えました。この事業が始まり、家に備蓄品があるか確認したり、準備したりしたことが考えられます。このことから、本事業で学んだ「備えが大切」を実際に行動に移したことがわかります。

災害について家族と話し合う割合は、残念ながらほとんど変化が見られませんでした。そのうえ、7割の家庭で「災害について話し合う機会がほとんどない」との回答でした。災害はいつ起こるかわかりません。在宅中に発災することも考えられます。各家庭で防災意識を高め、災害について話し合う機会を増やしていただきたいです。

最も変化が大きかったのが、「災害時にできることがある」と答えた児童・生徒の割合でした。事業後は、8割以上の児童・生徒が、「災害時にできることはある」と回答しており、その内容の多くは「人のためにできること」でした。具体的に防災講座で学んだ「コップ、スリッパ作り」や避難所での手伝い、避難するときの声かけ、高齢者の補助などでした。様々な活動を通して、多くの児童・生徒が、自分事として災害と向き合うことができたと考えられます。そして、自分や家族の命、そして故郷を守るために、「自分にできること」を考えることができました。